

クビボソコガシラミズムシ *Haliplus japonicus* Sharp

【選定理由】

県内においては1957年に新川町から記録されており、平野部から丘陵地に生息したと推測されるが、平野部における多様な水域の減少で生活の場を失ったと考えられ、近年の生息情報がない。

【形態】

体長 2.8~3.4mm。体は楕円形で淡黄褐色、上翅の肩部は側方へあまり広がらない。頭頂の点刻は密。

【分布の概要】

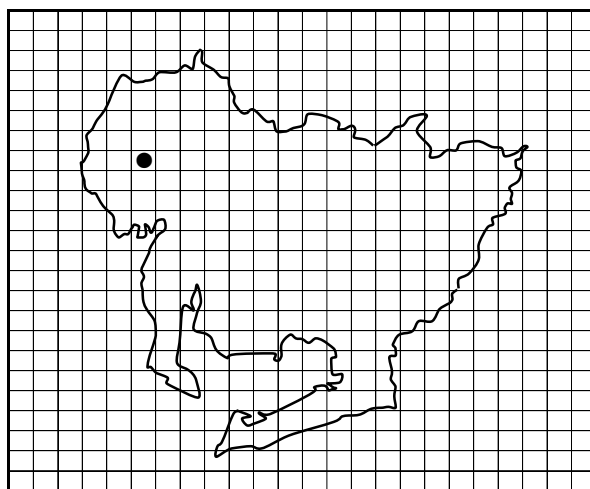
【県内の分布】

かつては平野部に普通であったとされるが、穂積・佐藤(1957)によって清洲市(旧新川町)からの記録が残されているのみである。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

河川のワンドや自然豊かな池沼、水田、休耕田などに生息する。

【現在の生息状況／減少の要因】

宅地開発、水田の圃場整備等による生息地の消失・改変、農薬散布や生活污水による影響を強く受けたことが考えられる。また、水草の豊富な水域に生息する種であることから、アメリカザリガニによる水域環境の悪化も影響があった可能性がある。

【保全上の留意点】

現在ある自然度の高い池や水辺環境をそのまま保全することが、本種の将来的な自然回復の可能性を残すことになるばかりでなく、多くの水生生物にとって最も有効な保全手段である。そのためにも脅威となる侵略的外来種の根絶が望まれる。

【引用文献】

穂積俊文・佐藤正孝, 1957. 東海甲虫誌(第3報). 佳香蝶, 9(31): 1-10.

【関連文献】

中根猛彦, 1985. 日本産ヒメコガシラミズムシ属の種の再検討. 北九州の昆虫, 32(2): 61-67.

佐藤正孝, 1984. 日本産水棲甲虫類の分類学的覚え書, I. 甲虫ニュース, (65): 1-4.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)